

公・民・学共創による持続可能まちづくりを通じた 復興知人材育成事業

採択大学等名

東京大学



連携市町村名

新地町

取組概要

1. 次世代の学びの基盤創出

地域の関係組織や住民とともに、新地町の次世代をにう子どもたちのための学びの基盤を創出し、新地町の未来や将来像について考え、理解し、実践する場を醸成する

2. 地域活動の実践型演習

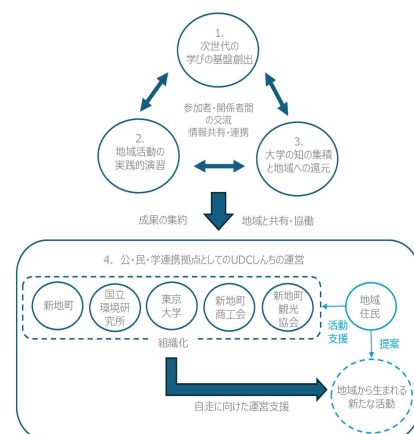
地域住民と大学（院）生が地域課題解決にともに取り組み、そこで学んだ経験をもとに、持続可能なまちづくりを内発的に行う担い手へと成長するきっかけを提供する

3. 大学の知の集積と地域への還元

研究教育成果を現地拠点UDCしんちで集積し、地域住民に発信・公開することにより、地域の教育や活性化に資する大学の知として、地域に社会還元する

4. 公・民・学共創の拠点としてのUDCしんちの運営

現地活動や交流事業をコーディネートするとともに、地域住民の参加により地域のまちづくりの担い手の創出に向けた活動を行う



これまでの成果

【取組1：次世代の学び】

●尚英中学校では、環境・エネルギーをテーマに「尚英中学校エネルギー学習」「尚英未来エネルギー倶楽部」、「新地町中高生・夏の学校」の3段階の学習プログラムを提供し、計516名が参加。科学の視点から地域課題や、町の将来を考える視点を養成した。

●新地高校特別授業では、まちづくりをテーマとした外部講師との交流を通じて、生徒の積極性と知的好奇心が向上した。

●小学校交流授業では、大学生とのふれあいが、大学を将来の選択肢として意識するきっかけとなった。



小学校交流授業
で駒ヶ嶺小学校
学生が訪問



新地町の中高生が
「夏の学校」にて、
柏キャンパスを訪問

【取組2：地域活動の実践】

●地域活動デザインスタジオでは、学生45名が町民と協働し、「豊かな風景」をテーマに11件の提案を作成。町民の新たな活動提案にもつながった。

●情報環境デザインスタジオでは、学生21名が被災地への関心を促す15本のメディア作品を制作。取組は国際的にも注目された。

●関係人口創出プログラムでは、学生23名が地域資源を活用した大学生向けツアーの開発を企画。観光をテーマにした卒論や動画制作も行い、魅力発信に貢献した。



地域活動デザイン
スタジオ「しんちゃっと」
交通弱者のために
UDCが出張する試み



情報環境デザイン
スタジオ作品
「バーチャル空間
で音を探す」

【取組3：大学の知の集積】

●環境システム学実地演習では、学生27名が太陽光や風力発電の可能性等をテーマに12件のシナリオを提案した。

●環境システム学輪講では、学生69名が新地町の風力発電ポテンシャル評価など、13件のシナリオの提案に取り組んだ。後者は、2023年10月の土木学会環境システム論文発表会にて、最優秀学生賞を受賞した。

●研究成果の地域への還元も進んでおり、新地町のサイクリングマップ改定や尚英中学校での活用など、地域の実践に結びつく形で展開されている。



現地演習
（町内4カ所に設置する
気象測器よりデータを取得）



現地演習
（農業DXの調査で
現地企業訪問）

【取組4：UDCしんちの運営】

現地拠点「UDCしんち」は2024年2月に組織化され、新地町在住のコーディネーター2名を中心に、拠点の活用と情報発信が本格化している。地域住民による利用も増加しており、新領域創成科学研究科が拠点を置く千葉県柏の葉エリアとの多層的な連携と、住民同士の相互交流も進展している（右図参照）

今後の展開

現地拠点UDCしんちの安定かつ持続的な運営を確立するために、新地町や国立環境研究所との協働により、次の点に重点的に取り組む

- 運営財源の確保
- 復興知人材の継続的な育成体制構築
- 活動の可視化と情報発信の強化
- 住民との継続的な信頼関係の構築
- 地域内外の多様な主体の協働促進

